法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-12-26

卒業論文題目

(雑誌名 / Journal or Publication Title)
日本文學誌要
(巻 / Volume)
15
(開始ページ / Start Page)
59
(終了ページ / End Page)
62
(発行年 / Year)
1966-06-30

法政大学

大学院日本文学専攻
文学部日本文学科

卒業論文題目

一九六六年三月

〔大学院（修士課程修了）〕

神谷　隆　『正法眼蔵』の解釈的考察
安江　武夫　近代文学にあらわれた日本人の認識
岸井　富江　藤原為時論
川口　師孝　北条団水について
秋間　俊夫　柿本人麻呂論
桜木　泰弘　平家物語における人間像創造論

〔一部〕

安達　和子　近松世話物における敵役について
阿部　絢子　私感武市黒人
飴谷　忠正　石川啄木
伊藤　修悦　宇津保物語小考
江崎　輝男　児童文学論
遠藤　彰　広介童話における純粋性と素朴性
鹿島　一彦　児童文学史の一研究
加藤　敦子　「源氏物語」第二部をめぐって
門倉伊智代　島崎藤村その人と藤村文学の魅力
久保田周子　「にごりえ」を中心とした樋口一葉私論
小出　幸宏　宇治拾遺物語におけるおかしみ
小林　穣　島崎藤村論—文学的生涯の特異性—
五木田　寿　冥途の飛脚についての一考察
佐藤　敏子　「姦通物」における女性の形象
篠崎　寿子　石川淳における方法の問題について
杉本　弼　物語文学の構造 宇津保と源氏の比較において
関口　祐史　芥川龍之介の童話
高宮　弘行　明治児童文学概観
田中　仁美　平家物語清盛への作者の挑戦
伊達早智男　島崎藤村論—破戒・春・家・新生を中心に—
中岡　勝　初期の正宗白鳥
永野　隆史　石川淳の出発における方法とその展開
沼　弘　「梨の花」の良平という主人公の精神成長の過程
林　礼子　明暗論
藤島　英行　志賀直哉論—初期作品における自我を中心に—
保坂　静江　源氏物語における一考察
本城　千富　児童文学の芸術性と大衆性 その今日的問題点
前崎　芳子　宮沢賢治の童話について
松村　英郎　平家物語覚一本における清盛の動き
森脇　寿一　宮沢賢治試論
山田　幸子　浜兵衛における人間像
吉岡　七郎　横光利一の眼
渡辺　引子　芥川におけるキリスト教—「切支丹もの」「西方の人」「続西方の人」を通して—
佐藤信一郎　中野重治と作中人物—「梨の花」を中心として—
畠山　三男　浜田広介論作品にあらわれた広介の童話論
脇　久雄　平家物語に描かれた古代人
各務　郷子　芥川龍之介論—青年芥川の敗北—
鈴木　茂代　源氏物語の笑い
萩原　興司　近松浄るりの改作とその問題点
斉藤　一彦　近松の姦通劇の展開
倉林　洋子　長歌と反歌の形成序説

伊藤　徹秀　小林秀雄論
遠藤　典子　広津和郎―人を信頼する心―
岩野美智子　源氏物語における人間像―女三宮についての一考察―
阿部　克博　近松世話悲劇についての一考察
高藤千朴子　宇治拾遺の民話性について
秋葉美南子　宇津保物語の主題性とその変転
池田　雄治　梨の花
伊藤四士良　芥川龍之介論
石原　正人　武田泰淳論―滅亡と忍耐の文学―
内田　紘子　文学作品を通しての中野重治の歩み―転向に至るまで―
江頭　公成　小説神髄についての一考察
遠藤　恭子　芭蕉における「風狂」の展開―「奥の細道」まで―
沖元久実子　源氏物語が到達した人間像
柿崎　雅子　従駕応詔作について
掛川久美子　万葉集における大伯皇女の歌の考察
川端　綾子　宇治拾遺物語の笑いについて
草薙　武　西鶴その可能性の系譜
佐渡谷富久子　宇治拾遺物語における説話的発想
白石　幸子　物語文学の創作方法　竹取物語と伊勢物語の創作方法の相違

萱谷　佐穂　近松世話物の展開
杉浦　博　明暗論
鈴木　洋子　平家物語における無常観の考察とその展開
高橋　純子　平家物語におけるほろびの世界の構造
詫間　詢子　近松における時代と女性について
照沼　信衛　鬼能との対比にみる鬼狂言の鬼像
西口　彰　芥川龍之介―不協和音のひびき―
西村　文子　西鶴「世間胸算用」について
張替　正子　好色五人女論
馬場　秀晃　近松ノート―一分とその展開―
松本　陽子　心中天の網島についての一考察
宮本　俊紀　長塚節「土」について
室岡　幸子　日本永代蔵について
森田与志子　宇治の世界に生きる人々
弓家田信子　藤壺宮をめぐる世界
吉野　広　初期万葉の底流
吉原せつ子　倉田百三私論―「愛と認識との出発」を中心として―
小堀　公久　竹取翁の歌物語における一つの展開
田中　瑞恵　野上弥生子論―作品にみる野上文学の二面性　逞ましさと弱さ―
深作扶美子　長塚節「土」の意味するもの

山内　靖弘　狂言の道行について
川田　邦栄　芭蕉「奥の細道」と風雅
佐藤　亮子　宇津保物語私論
須美　貞子　中野重治私観
長島美恵子　宮沢賢治とその童話
安島　史雄　「夜明け前」におけるリアリティと歴史性の相剋
川田　正美　「平家物語」の現代的意義
木下　敏郎　藤村「破戒」論
里見　洋子　柿本人麿
白石　和子　柿本人麿の枕詞の特質
鈴木　斌　鷗外諸観の考察
鈴木　利明　敗北の詩人―萩原朔太郎―
高橋　堯子　堀辰雄―生いたちによる性格構成とそれが作品の世界に及ぼす影響について―
高橋　敬子　石川啄木―その思想と文学―
辻　生庫　壺井栄と児童文学
都竹　清隆　「山の民」試論
角田　静子　「日本永代蔵」について
戸部　和子　万葉集常陸歌について
中西　征美　島崎藤村「新生」における節子の位置
林　静雄　堀辰雄の文学世界―その一面―
馬場　卓志　堀辰雄研究
平出　恵子　平家物語―一の谷から壇の浦まで―

広川　英美　戦国の笑話「醒睡笑」
堀田　幸江　平家物語—知盛について—
三岡　鑑太　「破戒」の抗議性
安岡　幹郎　田山花袋の自然主義における地位
吉田　文雄　島崎藤村作品論—五つの長編作品について—
吉村由紀子　宮廷詩人・人麿について
渡辺　昭子　神にしませばと人麿
遠藤美佐子　芭蕉における旅
藤井　重行　竹取物語小論
赤沢　衿子　久保栄作品におけるテーマと形象の背離について
阿部　浪子　嘉村礒多論
和泉　暁子　芭蕉の中の自然
小笠原光子　有島武郎における「二つの道」
小野寺範男　太宰治
甲斐　信生　小林秀雄論
斎藤　亨　詩人の死と開いたままの文学「夏の花」
中井　晴子　日本永代蔵に見られる町人の目的は何か
西野　春雄　世阿弥能楽論—鬼能の考察—
原田万里子　浜田広介という人
横山富美江　万葉集挽歌における葬制と他界観念について
魚住　剛士　作品「破戒」に対する藤村の人間性と社会矛盾
後藤　盛史　破戒・春・新生における関連性
若狭　光子　夏目漱石　なぜ三角形態における恋を追求したのか
堀江　拓充　石川淳「白猫」について
松岡　堯　太宰治論
能条　義博　宮沢賢治の児童文学と法華経について
松淵　久之　壺井栄とヒューマニズム
山岡　俊道　青年藤村の考察
渡辺　敏夫　能の単一性
川端　文一　諸艶大鑑論
根本　貞子　浄瑠璃における近松の道行について
田中　隆　芥川龍之介研究
丹生谷昭男　壺井栄について
山田　瑞彦　高橋虫麻呂論
渡辺　泓美　椎名麟三の出発
緑川　正次　中島敦論
豊島　紘正　宮沢賢治論「春と修羅」を中心として
山本　昇　葛西善蔵について
栗林　孝　夏目漱石—その観念性を中心に—
岡山　敦子　破戒論
篠宮　征二　平家滅亡とその人物構成
河野　信行　志賀直哉論—和解の意味したもの—
近藤　功　谷崎潤一郎の作品
鷲森八重子　横光利一論
小松　文勝　葉山嘉樹論
福田由美子　長塚節の「土」について
新井　忠　「再建」について
塩川　淑子　武田麟太郎
増子　直文　俊成の歴史的位置
井口久美子　覚一本「平家物語」における抒情性と創造主体との関係について

〔二部〕

岩崎　正雄　「雪国」の美意識
小笹喜代子　憶良の「七夕の歌十二首」について
宮川　偵子　評論「食ふべき詩」を中心に見る啄木の生活と芸術観
森島　正輝　「思ひ出」及び「邪宗門」において白秋が示したもの
生方　松子　かげろう日記
有山　奉文　挽歌の系譜
伊藤加芳子　柿木人麿私論
小笠原聆子　心の建設—本と性格形成—
荻野　明子　「平家物語」—説話的な面からみた古代と中世の受継—

恩田　綾子　平家物語論
金井　茂子　風姿花伝の研究
鎌倉　八郎　宇治拾遺物語における民衆の世界
黒川　兼弘　有島武郎論
今野　劼美　奥の細道
坂本　照夫　紀友則とその短歌についての一考察
佐藤　和子　一茶の俳句
高橋　雅美　小林多喜二研究―「蟹工船」より「党生活者」までの推移
巽　美栄子　伊藤整「氾濫」までの文学的道程
中田　龍治　谷崎潤一郎作品に於ける西洋趣味と女性崇拝（痴人の愛・春琴抄）
藤田　昌孝　文学界とその周辺の人間像
松田　誠子　芭蕉の俳諧と生活
松永　稔之　兼好の無常観
三上　久子　「西行」
八巻トア子　作品分析有島武郎「小さき者へ」
朝夷奈和子　自然主義と「破戒」
池田　洋　「細雪」
島村　一郎　山東京伝について
堀内　富子　弁道話論
奥富由紀子　太宰治について
勝呂　功　野間宏小論
石川　七郎　有島武郎の「惜しみなく愛は奪ふ」における思想の発展
伊藤由美子　「破戒」から「春」への移行
稲垣　純逸　源氏物語私見
窪田　道夫　泉鏡花論
五味　巖　二葉亭四迷論
清水千鶴子　「家」（島崎藤村著）
布施　祐一　良寛論
森田　徴子　山上憶良小論
鈴木志知郎　兼好の目（徒然草）
岳下　秀雄　堀辰雄における作品作家論
樽見　智夫　私小説の研究
山下　堯　大江健三郎研究
伊藤　憲男　小川未明研究「童話宣言」論
鈴木　弘　中野重治論
西出恵津子　国木田独歩論―その文学の本質―
佐々木智子　堀辰雄論
本城　昭夫　国木田独歩論
加藤　勝見　有島武郎論「惜しみなく愛は奪ふ」を中心として―
牧　一志　死に直面した芥川
野田　律子　樋口一葉論
小林　育枝　佐田稲子における生活と文学について（序論）
松本　浩　太宰治論―中期の太宰をどのように評価するか―
村上　静子　風土記における説話